

## 事業実施報告書

所在地 団体名 代表者名	福岡市博多区博多駅東1-1-16 第2高田ビル2F 公益社団法人 福岡県介護福祉士会 会長 江口 賀子
事業名称	多職種連携シリーズ研修（全5回）
事業の概要	介護福祉士を含む介護職が連携する多くの専門職の立場から、介護福祉士に期待される役割や、備えて欲しい知識・技術等について学びを得るモデル研修を行い、その効果検証を行ったうえで、当該研修のガイドラインを作成する。  1 多団体等の専門領域に関する研修を実施する。 2 研修前後に行う各団体との意見交換会で、相互の団体の専門知識を学び合うとともに、団体同士または職種間の連携の在り方についても意見交換を行う。
事業実施期間	令和5年5月～令和6年2月
事業実施体制	多職種連携シリーズ研修実行委員会 ・委員長1名 ・委員 3名 ・事務局2名
事業対象者	介護福祉士及び他団体等関係者

事業実施スケジュール	令和5年5月21日（日）意見交換会開催 <b>【出席者】</b> 公益社団法人 福岡県理学療法士会 副会長 松崎 哲治 様 公益社団法人 福岡県介護支援専門員協会 常任理事 藤上 祐二 様 公益社団法人 福岡県薬剤師会 常務理事 濱 寛 様 福岡県老人福祉施設協議会 副会長 原 雅昭 様 公益社団法人 福岡県介護福祉士会 会長 江口 賀子（司会）、副会長 小笠原 靖治、 副会長 小島 香代子、副会長 田中 喜美子 事務局主任 松尾 未希（議事録） <b>【内容】</b> 多職種連携シリーズについての説明 意見交換会：本研修について、多職種連携について本会に望むもの  6月～ 多職種連携シリーズ研修 受講者募集 8月～ 多職種連携シリーズ研修第1回目受講者申込
------------	--

	<p>第1回 8月20日(日)</p> <p>【講師】公益社団法人 福岡県理学療法士会 松崎 哲治 氏 (公益社団法人福岡県理学療法士会 副会長)</p> <p>【内容】理学療法士と介護福祉士の連携について 腰痛にならない介護の仕方 理学療法士から望むこと</p> <p>【参加者】15名</p> <p>第2回 9月23日(土・祝)</p> <p>【講師】公益社団法人福岡県介護支援専門員協会 藤上 祐二 氏(公益社団法人 福岡県介護支援専門員協会 常任理事)</p> <p>【内容】介護支援専門員と介護福祉士の連携について 介護支援専門員との連携の方法について ケアマネジメントと介護過程の連携時に必要な項目や視点について アセスメントにおける視点について介護福祉士に望むこと</p> <p>【参加者数】14名</p> <p>第3回 10月21日(土)</p> <p>【講師】公益社団法人福岡県看護協会 西尾 美登里 氏(西九州大学 准教授)</p> <p>【内容】看護師と介護福祉士の連携について(施設・在宅における課題と期待) 最新知識・技術について 身体面の異変・異常の早期発見の方法について 看護過程の展開と介護過程の展開の連携方法について</p> <p>【参加者】15名</p> <p>第4回 11月14日(火) 老人福祉施設協議会</p> <p>【講師】福岡県老人福祉施設協議会 藤井俊文 氏 業務執行委員(次世代部会部会長)</p> <p>【内容】多職種連携の好事例について AI、ICT、ロボットで変わる介護現場、その中で介護福祉士に問われるものとは～専門性とDXを取り入れた多職種連携～</p> <p>【参加者】12名</p> <p>第5回 12月7日(日)</p> <p>【講師】公益社団法人福岡県薬剤師会 濱 寛 氏 (公益社団法人福岡県薬剤師会 常務理事)</p>
--	---

様式 7

	<p>【内 容】薬の最新知識          介護福祉士として身につけておくべき薬の          投薬方法          薬の構造や副作用における注意点と利用者の          観察の視点          施設介護・在宅介護における薬剤師との連携          について</p> <p>【参加者数】15名</p> <p>締切・取りまとめ（以降毎月全5回実施）          // 多職種連携シリーズ 実施・アンケート</p>	
事業の目標	実際の事業によって得られた効果	目標達成度
<p>1 介護福祉の専門職が自らの役割を認識し、多職種連携の中で、自信をもって役割を担うことができる介護福祉士を育成するための効果的な研修ガイドラインを構築する。</p> <p>2 そのうえで、当該ガイドラインを周知することで、多職種連携を図ることができる人材を育成する道筋を構築する。</p> <p>3 また、当該取組を通し、各専門職団体においても介護福祉の専門職の役割等に向き合っていたくことで、当該役割等の認識を広める効果を得る。</p>	<p>1 多職種連携の研修を実施。各領域からの介護福祉士との連携について研修を行った。各職種からとらえている介護福祉士が知っていて欲しい知識についての講義内容を実施していただいた。          また、連携について、具体的に伝えてもらうことができ、受講者の知識を得たことについての満足度は一定評価を得た。          しかしながら、研修ガイドラインの構築までには及ばなかった。</p> <p>2 研修において、15名程度の参加者であることを考えると、ガイドラインの構築が検討中であり、周知にまでは届いていない。          他職種連携が必要と言われるが、施設等での知識普及及び基本的な部分をもう少し整理する必要があることが理解できたにとどまる。</p> <p>3 今回の成果として一番に挙げられるのが、介護福祉士の役割について、多団体がどのようにとらえているのか、また、連携を行いたかったかが、理解できた。          県内の各団体と、意見を交わす場面がなかったこと。各職能集団が連携しあうことがまず大切であり、連携と言いながらそれぞれの団体での見解が十分整理できているわけではないこと等が理解できた。          今後、各団体と意見交換を重ね、福岡</p>	<p>50%</p> <p>20%</p> <p>90%</p>

様式 7

	<p>県介護福祉士会自身が各専門団体との連携をとれるようにし、学術的に交流を持つ必要があるととらえた。</p> <p>各職能集団から、研修等において適切な職員の派遣をしてもらえることが行える体制ができたことが最大の効果である。</p>	
今後の課題	<p>1 研修参加人数について 今回、50名との規模を考えていたが、15名前後であった。このことは、コロナについて5類に変更になっているが、施設内では感染症対策がいまだ行われていて、施設職員の研修派遣や研修参加が難しい時期であったこと。介護人材不足のため、研修そのものに参加が少なくなっている状況があることが原因と言える。</p> <p>2 多職種連携について 施設の現場においては、多職種連携の必要性は言われているものの、研修として現場のニーズや興味関心についてリンクしていない場合があるとの指摘があった。会員に対して、必要とする内容と、会員が求める内容の齟齬について今後の検討課題である。</p> <p>3 マニュアル作成について 今回の参加人数から、モデルは行えたものの標準的なガイドラインの作成については、検証が難しい点が考えられた。</p> <p>効果的などとは言いづらく、今後多職種連携研修を重ねていく中で、再検証を実施していく必要がある。今後の課題としたい。</p>	
備考	<p>ガイドラインについては、まだ精査を重ねています。そのため、報告書ができ次第提出させていただきますが、今回の報告には添付できませんことをお詫び申し上げます。</p>	